# 猪高の森自然観察だより　3 月号

**開催日時：2023 年 3 月 26 日（日）　　雨天のため観察会は中止**
**天候：雨　　気温：最低 10.9℃、最高 13.9℃（名古屋に於いて）**
**テーマ:猪高版･春の七草と棚田の春**
**コース予定:森の集会所 → シダレザクラの里 → こもれび池 → 森の集会所**

近年にない早さで３月 17 日に名古屋で**ソメイヨシノ（桜）**の開花宣言が出されました。

シダレザクラの里の**エドヒガン枝垂れ**も３月 14 日に咲き始め、26 日には散り始めていました。

畑の**オオシマザクラ**も 29 日には満開。

最高気温が 20℃以上の日が 3 月に何日あったかの記録も、データを取り始めてからの日数を更新中です。(左上画像はシダレザクラの里に咲いていたスノーフレーク（園芸種)、画像は猪高緑地以外で撮ったものも含みます)

**〇春の七草は在来種？**

セリ、ナズナ, ゴギョウ（ハハコグサ)、ハコベ、ホトケノザ（コオニタビラコ)、スズナ（カブ)、スズシロ（ダイコン）は「春の七草」と言われています。純然たる日本の野菜（？）と考えがちですが、実は・・。

⊡**セリ**・・・日本原産と言われている在来種。万葉集にも登場。

⊡**ナズナ**・・・ペンペングサとも呼びます。麦栽培の伝来と共に日本に渡ってきた、史前帰化植物（※)。薬用植物でもあります。

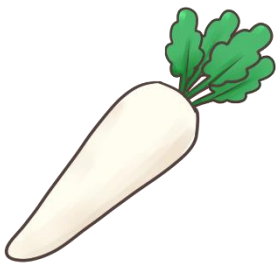
⊡**ゴギョウ**・・・ハハコグサ。江戸時代以前に持ち込まれた史前帰化植物。

⊡**ハコベ**・・・ミドリハコベは在来種。コハコベは帰化植物ですが、いつ日本に来たかはハッキリしていません。

⊡**ホトケノザ**・・・現在のコオニタビラコのこと。タビラコとも言います。在来種。

⊡**スズナ**・・・カブ。かなり古い時代に（弥生時代の説あり）中国大陸または朝鮮半島からもたらされたと言われています。

⊡**スズシロ**・・・ダイコン。弥生時代にはすでに伝わっていたとされています。



※史前帰化植物

「帰化植物のうち、有史以前に稲や麦などの栽培植物と共に日本にもたらされた植物」

を示します。ヤエムグラ、スベリヒユなどの水田や畑などの耕作地に生える雑草が多く含まれます。江戸時代末期以前に、大陸からの交流で渡来したものを旧帰化植物、江戸時代末期以後に渡来したものを新帰化植物と区別することがあります。

（参考：デジタル大辞典）

**〇スミレの仲間の種はどのように運ばれる？**

動けない花や樹が種を遠くに運んでもらう方法は様々です。秋の小さめの赤い実は鳥たちによって運ばれ、タンポポの種は風に乗って運ばれます。

スミレの種には「**エライオソーム**」と呼ばれる付属物がくっついています。この付属物はアリたちにとって、とても魅力的な食料に映るらしく、本体の種と一緒に自分の巣に運んで行ってしまいます。

アリたちはそこで食料となる付属物だけをはずし、要らなくなった本体の種はポイッと巣の外に捨てられてしまいます。

これで、スミレの作戦は完了。アリを使って、無事により広い範囲に運んでもらったわけです。

**エライオソームのついた種を持つ植物は多く、スミレの仲間をはじめカタクリ、アケビの仲間、ホトケノザ、スズメノヤリ、ヒメカンアオイなど多くの科の植物にわたっています。**

**〇この時期変わった香りが漂う犯人は？**

毎年のことですが、この時期に林や森の中に入ると、「都市ガスの香り」「ラーメンの粉末スープ」などに形容される変わった香りに出会います。

犯人は**ヒサカキ**。左の画像のように細かい小さな花をたくさん咲かせます。

神棚や仏様にお供えする木として、お花屋さんでも扱っている樹で、「チラ」と呼んでいる所もあるようです。

サカキよりも耐寒性が強いので、東日本から東北地方の一部まで分布があり、サカキ（榊）の代用として使用されているとのことです。漢字では「姫榊」「非榊」と書きます。

常緑広葉樹林の中で最も本数の多い樹でもあるので、一斉に開花すると林の中いっぱいに香りが漂います。

雌雄異株の樹ですが、はっきりと「雄株」「雌株」と分かれている訳ではないようで、詳しくは 22 年の 3 月号に詳しく載っていますので、ご覧ください。

http://sizen.ciao.jp/observation/20220327itaka.pdf

です。

**〇「パルピ」ってなに？**

昆虫にある「象の鼻のように長く伸びた器官のこと」です。

日本語では「下唇鬚（かしんしゅ）」と呼ばれています。チョウやガによく見られ、匂いなどを感じる触覚のような働きをします。（参考：目に見えるいきもの図鑑）

代表的な種は、成虫越冬する**テングチョウ**です。

この時期、晴れた暖かい日に陽だまりに体温を高めようとやってきます。

左の 2 枚はテングチョウの画像です。名前の由来である頭部の　突起が「パルピ」です。(赤丸で囲っている部分)

シジミチョウの仲間でも、このパルピを持っている種類があるので、よく見てみると良いでしょう。頭の上方に向いて伸びている種類もあります。

**〇シラサギを見分けてみよう**

猪高の森によく飛来するシラサギは２種類です。

① **ダイサギ**
② **コサギ**

ダイサギの方がコサギよりも大きいサイズですが、遠目にはよくわからないことがよくあります。

区別点で迷わないのは左の画像の赤丸で囲った足の部分です。色が**黄色ならば、コサギ、黒か赤っぽい色ならばダイサギです。**もしも、出会ったら注意して観てみましょう。

**〇暖かさが続き、動物たち、植物たち他にもいろいろ**

ニホンアカガエルの卵が孵りオタマジャクシがたくさん！

ビロードツリアブ：モフモフの体でホバリングをしながら花に来ます。春だけの登場です

シジュウカラなどの小鳥たちはペアになり、巣作りをし、雛を育てます。

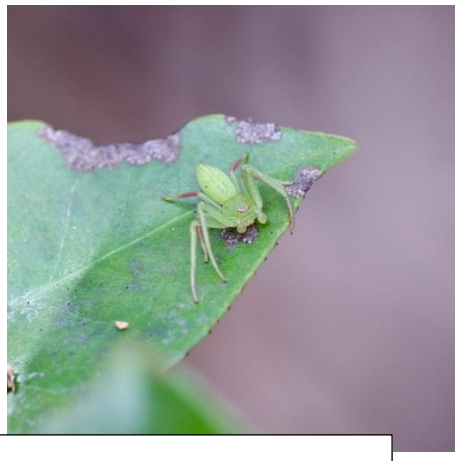
無事に越冬したカナヘビの幼体。良かったね。

これも無事に越冬したナナホシテントウ。食べ物のアブラムシを探さなくちゃ。

蛹から羽化したモンシロチョウ。

モンキチョウは幼虫で越冬します。

暖かくなるとこの仲間も登場します。小鳥たちの大事な食べ物ですが、全てこの仲間がいなくなると、お菓子の種類が減ることに・・。（最後にその理由が）



クモの仲間も登場してきました。
左はイエユウレイグモ　室内の隅っこであみを張ることもあります。右のワカバグモは待ち伏せタイプ、周りの色に溶け込みながら、獲物を待ちます。

ハエトリグモの仲間は狩人タイプ。獲物を見つけて、飛び掛かります。

擬態の軍配はどちらにあげますか？
左はハスオビエダシャク、右はアカエグリバ。
枯れ葉にそっくり！

ハナアブの仲間は大事なポリネーター（送粉者）の一員です。花粉を運び、実を成らせます。アシブトハナアブです。

色づき始めたナワシログミ。
まだ、渋い。

キヅタの葉に描かれたこの模様。表と裏の葉の皮の間に蛾などの幼虫が入り込んで作ります。芸術的！

カルガモたち。今年も子育てがうまくいくように願います。

5 ページの蚊の答え

蚊の仲間にはカカオの花の受粉に関わっている種類があり、その種類がいなくなると実が成りません。つまり、チョコレートやココアが食べられなくなります。

この時期の猪高の森は次の URL もご覧になってください。

http://sizen.ciao.jp/observation/20220327itaka.pdf
http://sizen.ciao.jp/observation/20230226itaka.pdf

次回観察会は

４月 23 日（日）森の集会所集合　9：30～　です。　ご参加ください。